

## 参考資料1

# 未来へつなぐ行政サービスのあり方検討会 中間取りまとめ

- 2025/5/30 第1回検討会（設置、本県の現状、議論の方向性）
- 7/31 第2回検討会（公共施設、インフラ施設）
- 10/10 第3回検討会（公共・インフラ施設、農業分野）
- 2026/ 2/6 第4回検討会（中間とりまとめ素案、今後の進め方）
- 3/24 検討会中間とりまとめ公表

➤ 2060年に60万人台でもウェルビーイングな富山県でありつづける

👉 （そのために…）

官だけでなく民も含めた視点で

➤ 県全体を俯瞰し、2060年を念頭に、分野・組織横断的に、未来志向で10年後を見据える

👉 （具体的に…）

- ○データの収集・分析（ex.これまでの実績と今後の見込み、利用者属性、時間帯、圏域等）
- 優先順位付けをルール化（ex.トリアージ基準、データで見える化）
- 将来の利用者目線で（ex.将来誰がどれだけ利用、将来の負担は）
- 現在・将来の負担を減らす(平準化する)発想への転換（ex.省インフラ、スリム化、一人当たりの負担ベース）
- 減らすだけでなく、「質」や「機能」を維持(向上)していく視点も必要
- AI・デジタルなど最新技術を駆使（ただし、使う、確認するのは最終的にはヒト）
- ハコ・ヒト・情報・ノウハウを共有化、統合・集約化、拠点化・掛け合わせによる機能強化  
（ex.官官分担・官民連携、浮いた資源・余力を必要な人的サービスに配分）
- 全体最適を考えたうえでの個別最適の検討  
（ex.サービスの受け手目線で、分野横断的・組織横断的に、最適なサービス水準と適正規模・配置）
- 人口減少・人手不足に適応するための、富山の実情に合った前向きな成果設定と、  
好循環につながる未来志向かつ長期的視点での必要な投資（ex.教育・子育て、人材の確保・育成）
- 社会全体で、住民の皆さんも当事者意識をもち、自分事化を浸透(考え方の転換)
- 当事者が納得感をもてる、変化の見える化と事例の発信・横展開
- これらを推進する体制と、できるところから着手する姿勢(柔軟な見直し)

## ○人材資源・ノウハウの共有化 (サービスを提供する人や方法からなるソフト面に着目)

・AI・デジタル技術等を最大限活用し、生み出された余力で人にしかできない業務に重点化

<特に専門職について> ※災害時・緊急時と通常時との場合分け

(1)災害時、緊急時の対応

➢ 経験・ノウハウを蓄積した人材をプールし、必要に応じて派遣することも必要

(2)通常時

➢ 業務内容や類似性、適正規模等を考慮し、県・市町村間の役割分担を整理。

県内リソースータルでどう効率化を図れるか、働き方改革の面も含め検討してはどうか。

## ○施設・インフラの適正・最適化 (サービスを生み出す礎となるハード面に着目)

・公共インフラのあり方 ~ネットワークで機能することに配慮~

➢ インフラを新しくつくることから、維持・修繕中心にシフトしていく必要

➢ 事例を積み上げ、優先順位づけのルールづくりが必要(富山市等の先進例を参考)

➢ 県民・利用者目線で、管轄を越えた一体管理(群マネ等)などの検討が必要

・公共施設マネジメント

➢ 主に職員が利用、オンライン等で代替可能な窓口 ⇒ ハードの集約・統合もあり得る。

➢ 施設に来ることに意義のある場所 ⇒ 機能・ソフト面で官官連携・分担もあり得る。

➢ 県全体で適正規模・配置を考えることも視野に (市町村に負担を押し付けない)

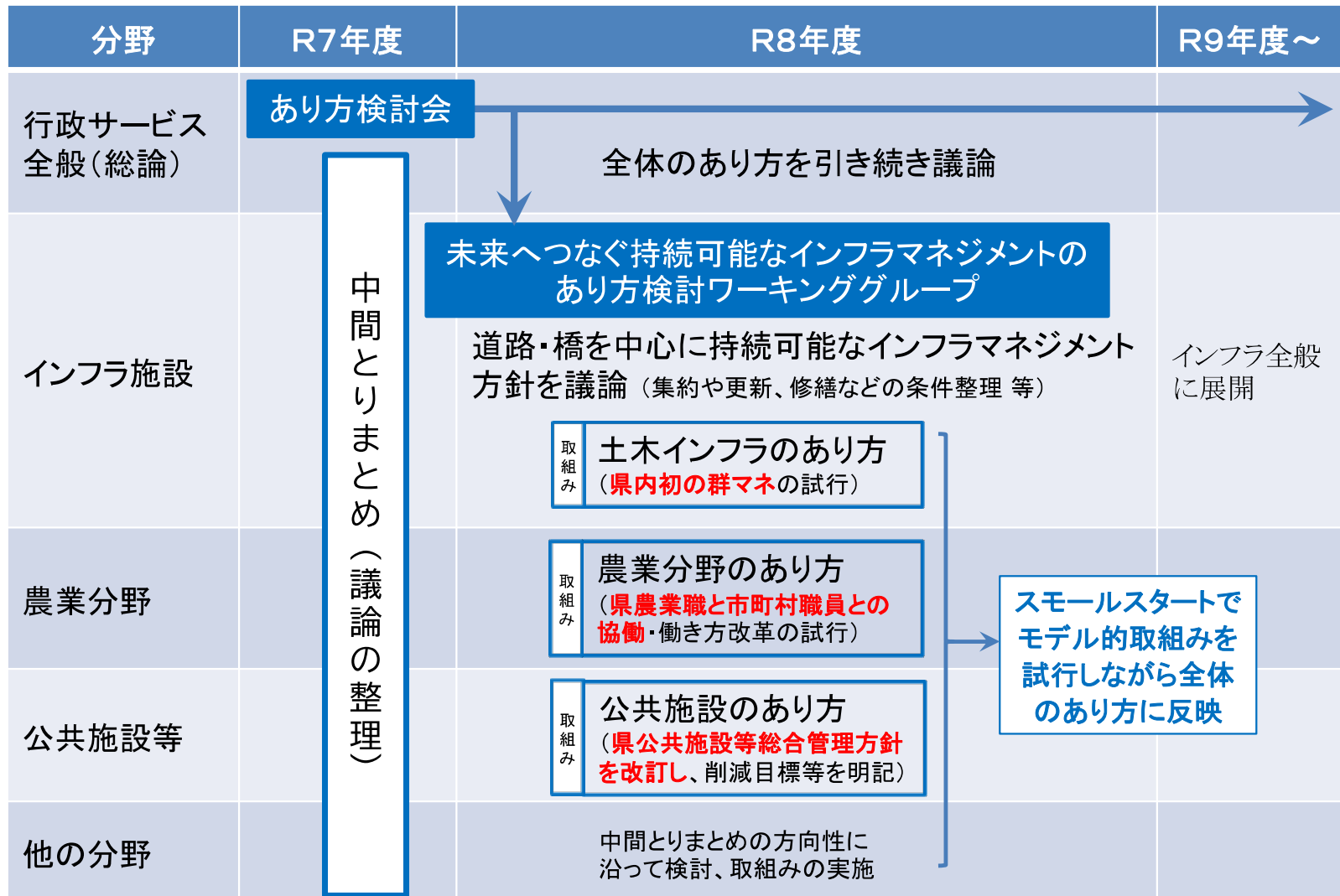
※新しい価値や機能を創出する投資は必要。ただし、適正・最適化の観点を踏まえることが重要

3

これまでの議論や視点を参考に、その他の行政分野や領域も含め、対応策を検討していくことが必要

# 検討会の進め方と令和8年度の取組み

第4回検討会  
(R8.2.6)資料抜粋



### 趣旨・目的

持続可能なインフラマネジメントのあり方をテーマに、まずは道路・橋梁を中心にその方針について議論するもの

- ・限られた予算や人員の中で、激甚化・頻発化する自然災害や加速化するインフラ老朽化への対応が求められるなか、現在の行政サービス水準を将来に渡って維持し続けることが困難となっている。
- ・R7年度に実施したあり方検討会では、「新しいインフラを造るより今あるインフラを活かすことに方針転換すべき」や「インフラの量を縮減し、持続可能な省インフラ型社会への移行を推進すべき」との意見が大勢を占めた。

検討会設置要綱第6条第1項に基づきWGを設置  
(WGのメンバーは同条第2項に基づき、座長が別途指名)

### 開催時期(予定)・議題(案)

4月頃 第1回WG ・県が管理するインフラの現状とその課題  
・WGでの論点・方向性について

8月頃 第2回WG ・持続可能なインフラマネジメント(道路ネットワークなど)のあり方  
(客観的なデータに基づく橋梁の更新・修繕、集約等)  
・県民自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成

10月頃 第3回WG ・第2回WGの深掘りなど

1月頃 第4回WG ・検討のとりまとめ

※WGでの検討状況は適宜、親会議にも報告

※WGでの議論と並行しながら、県民の皆さんが当事者意識をもってインフラの将来像を考え、体験していただけるようなイベントやシンポジウムなども実施予定

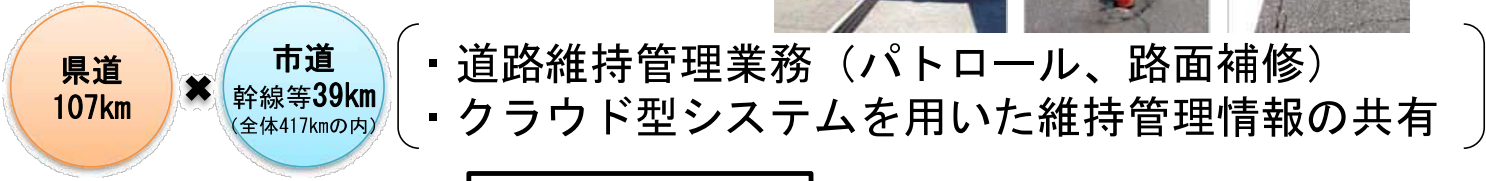
# 県内初の群マネの試行

## これまでの経緯

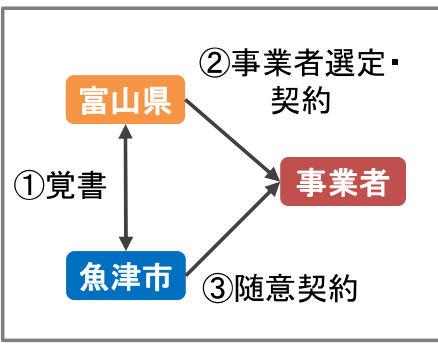
R6年度～ 国や市町村とインフラメンテナンス勉強会を開催（3回）



R8年度～ **魚津市と連携実施**



## 期待する効果



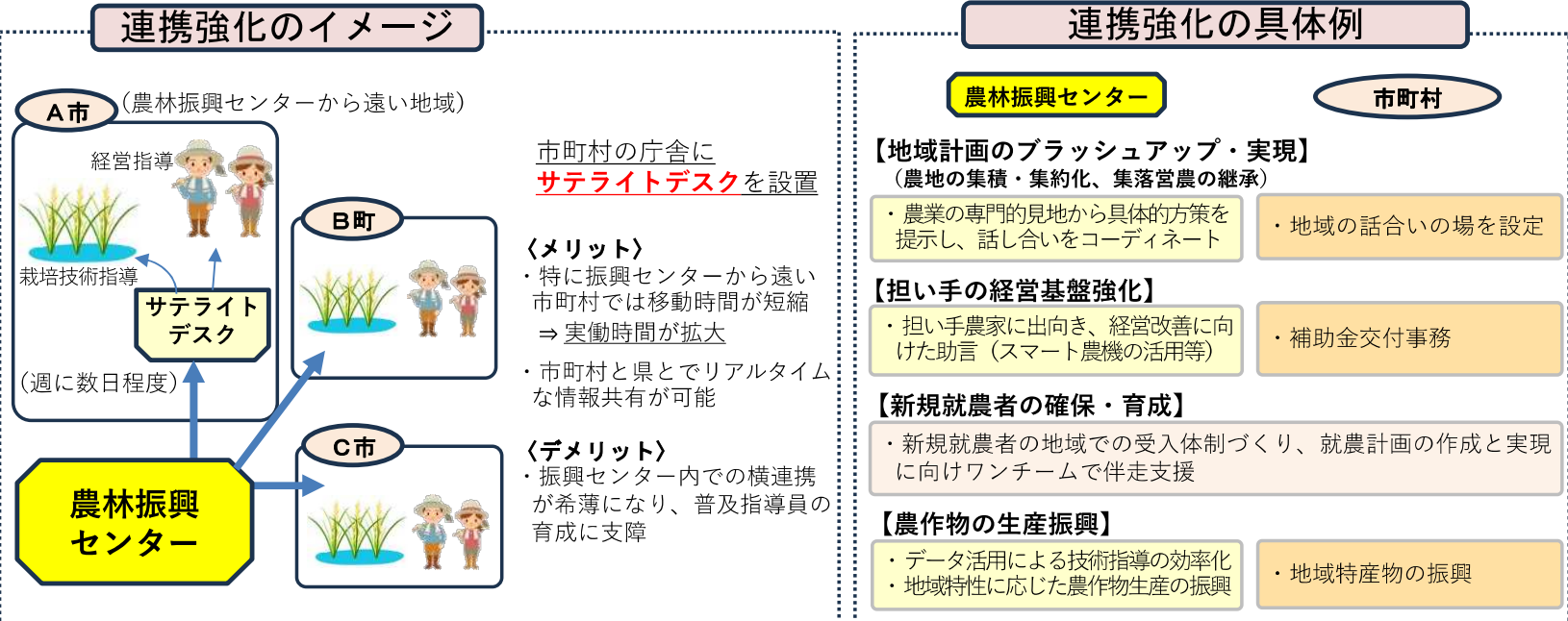
<連携スキーム>

- 事業者側の業務効率化
  - ・パトロールの効率化
  - ・県道、市道の区別なく近隣箇所での修繕を実施
- 発注者側の発注手間の軽減
  - ・県はパトロールと小規模修繕をまとめて発注
  - ・市は覚書に基づき、県が選定した業者と随契

取組内容

- ◇ 振興センター職員が週に数日程度、市町村に駐在し、農業者や関係機関との連絡調整を実施できる体制を確保
- ◇ 就農相談や集落営農組織の各種課題（後継者不足等）に対し、市町村と振興センターが緊密に連携して対応
- ◇ 普及指導員がデータを活用し、農作物の栽培に関する指導を効果的に実施（温暖化による気象変動への対応を含む）

概要



期待される効果

- 地域計画の改善（ブラッシュアップ）を進めることで、地域ごとの課題に的確に対応した施策展開が可能となる
- 集落営農間の連携・合併や第三者継承の促進等により、組織の安定経営と地域農業の持続性が向上する
- 相談体制や受入体制の整備により、新規就農者の確保・育成が進み、将来的な担い手確保につながる
- デジタル技術の活用や業務効率化により、栽培技術指導をはじめとした支援が迅速・的確に実施できる

スケジュール

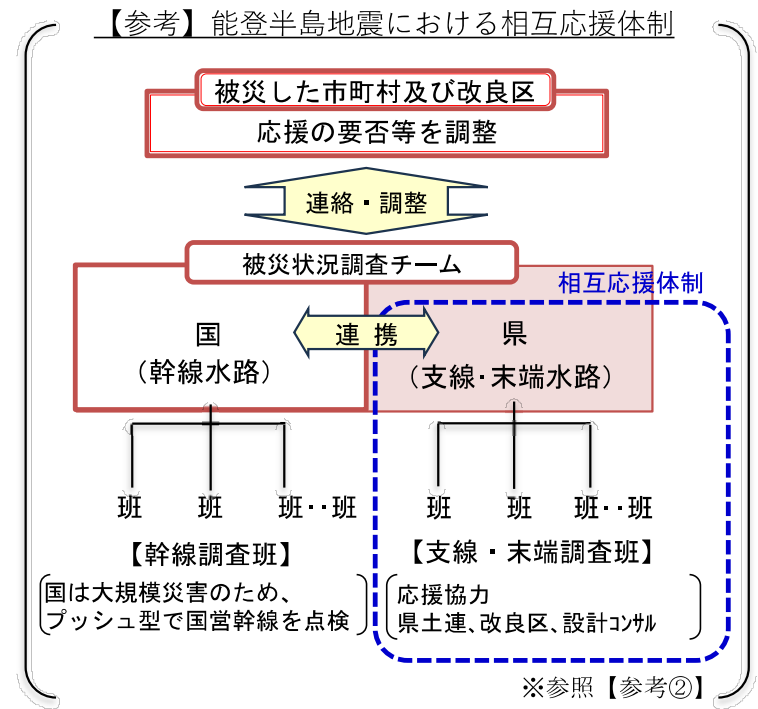
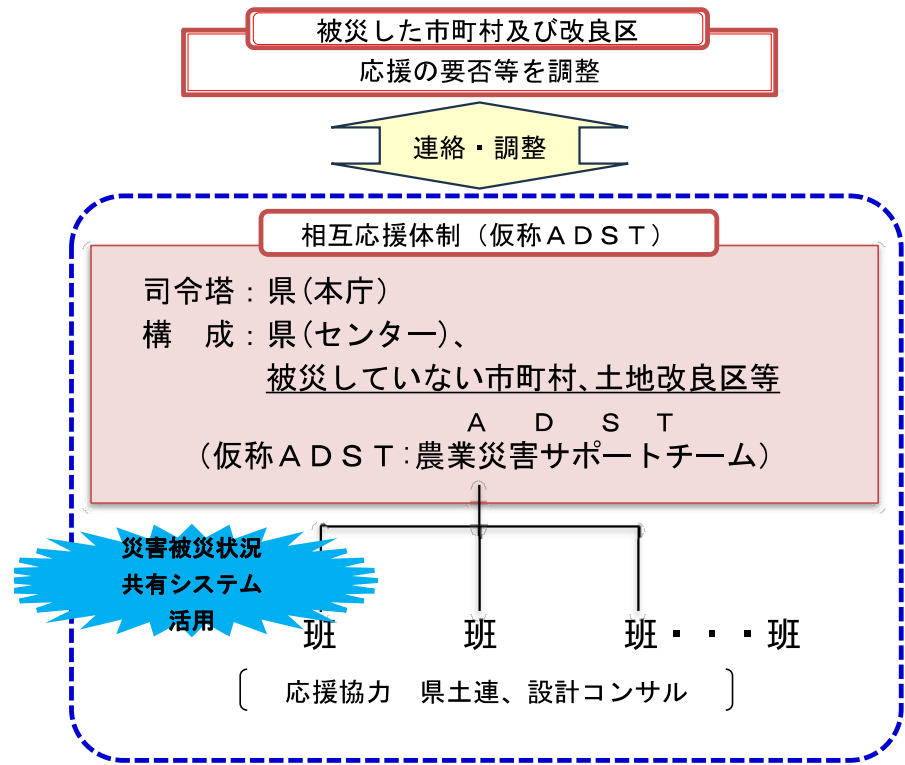
R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度～
あり方検討	県内1～2か所でモデル実証			本格導入
市町へ連携の聞き取り	順次拡大		モデル実証効果検証	実証効果検証

災害対応

大規模災害時における「農業土木技術職員」の相互応援体制

○災害が激甚化・頻発化する中、農業土木分野における県、市町村、土地改良区の技術職のマンパワーが不足。  
○この課題に対して、「チームとやま」のスキームを活用し、県庁(本庁)が司令塔としての役割を明確化するとともに、被災していない市町村や土地改良区等も含めて支援する体制を構築する。

★県と市町村等の連絡調整は、「チームとやま」のスキームを活用  
改良区や設計コンサルを含めた被災状況調査は能登半島地震における対応事例を想定



# 富山県地域産業成長プラン(案)

参考資料 2

富山の強み×世界の潮流＝経済安全保障とウェルビーイングの実現

## ▼5つの重点分野(具体的な成長分野)

### 【地域産業クラスター計画】

#### ①マテリアル

アルミやプラスチック等のサーキュラーエコノミーの推進

・富山大学  
先進アルミニウム  
国際研究センター

#### ③半導体

半導体関連企業  
の大型投資

#### ②バイオ・医薬品

国内最大級のバイオ医薬品  
CDMO工場の開設

#### ④データセンター

AI時代を支える基盤づくり

### 【地場産業成長プラン】

#### ④コメ・コメ加工品

コメ及びコメ加工品（パックご飯、  
米菓、冷凍寿司等）の輸出拡大

#### ⑤ウェルネス・観光

健康食、伝統工芸等

クラスターの産業分野（ハード面）を  
さらに広げ、人々の生活や豊かさ（ソフト面）へつなげる

➡癒しの聖地・ウェルビーイング先進地域の具体化

## ▼なぜ選定したのか？

### 県の最上位計画との 「整合性」

- ・富山県総合計画
- ・富山県ものづくり産業未来戦略
- ・富山県地域未来投資促進計画

### 富山県が培ってきた 「圧倒的強み」

- ・日本海側屈指の工業集積
- ・全国トップクラスを誇る「富山のくすり」
- ・恵まれた水資源、優れた物流網

### 世界的潮流と 「経済安全保障・将来性」

#### マテリアル

国内外のサーキュラーエコノミー移行の動き＋  
中東情勢の緊迫化による調達リスクの高まり

#### 医薬品

国内生産やサプライチェーンの強化

#### 半導体・データセンター

AI時代に対応できる国際競争力の強化

# 富山県人材確保・活躍パッケージ、始動

—「人が減る」時代を、「人が輝く」転機に。みんなでつくる「選ばれる富山」—



## 労働供給制約社会を背景に、「人材確保・活躍の富山モデル」を目指す

県内では、労働供給制約(人口減少、高齢化を要因とする、働き手の量が必要な労働量を下回る構造的な人材不足)を背景に、医療・福祉、教育、運輸、農業、建設、公共交通、行政、警察など、県民生活の維持に不可欠なエッセンシャルワーク分野をはじめ、**深刻な人材不足が喫緊の課題**となっています。

これを乗り越えるため、**「富山で働く価値」を戦略的に高め、発信し、人材が集まり、定着する構造**をつくる必要があります。富山県は、このための仕組みを**全国に先駆けて構築**していきます。

## 「オール富山」:みんなで進める総合的施策を策定

人材不足の要因は**多様かつ複合的**です。また、人材戦略は奇策で改善するほど単純ではありません。

このため、総合的施策**「富山県人材確保・活躍パッケージ」**をまとめました。このパッケージには、**「人材確保」「働き方改革」「人材育成」「省力化・省人化」**を大きな柱に、**県民の皆様とともに進める多様な支援策**を盛り込んでおりますので、ぜひご活用ください。

パッケージの各施策の詳細については、**県ホームページ特設サイトにてご確認ください。**

- 「自らが支援対象となるかどうか」を検索・抽出できます。
- その他、事業・取組みの性質に応じた絞り込みや、任意ワード検索も可能です。



富山県人材確保・活躍パッケージ

検索

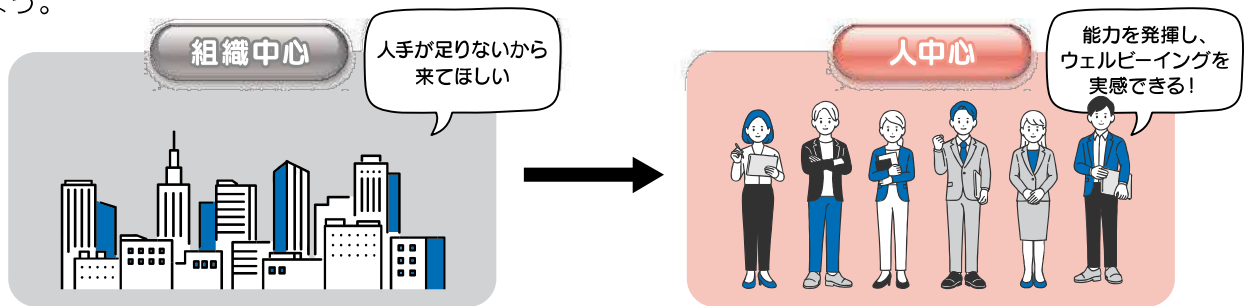
# 「人材確保・活躍の富山モデル」の構築を目指します

## 「人材確保・活躍の富山モデル」とは

労働供給制約社会を乗り越えるため、行政でリードし、県民・組織・企業・地域が一丸となって推進する、人材確保・活躍の仕組みです。「富山で働く価値」を戦略的に高め、発信していくことで、人が自然と集まり、定着し、活躍する好循環を目指します。

## 「人を奪い合う」のではなく「選ばれる富山」へ

人材不足の状況に対して、「組織中心」から「人中心」へと発想を転換し、一人ひとりが能力を発揮し、ウェルビーイングを実感できる環境を整え、その結果として企業競争力や地域活性化が向上することを目指します。「人が減る」時代を「人が輝く」転機に。みんなで「選ばれる富山」をつくっていきましょう。



## 「人材確保・活躍の富山モデル」構築ロードマップ

### 全体像

- パッケージを毎年ブラッシュアップ(PDCA)
- 先行的な成功例(マイクロモデル)を積極的に横展開
- 成功例の「声」を戦略的に流通させ、ブランド化

### 共感の拡散と「富山ブランド」の形成

- パッケージv3.0:  
マイクロモデルの成功要因をパッケージに組み込み、再構築。横展開を本格化  
特定の業界だけでなく、産業全体など、マイクロモデルを「点」から「面」的に拡大
- マイクロからマクロへ、ロコミの戦略的拡散によって確信に変える

### 始動と突破口形成

- パッケージv1.0:  
本格始動。「マイクロモデル」の創出に注力
- 「富山が変わる」という戦略とメッセージを県内外へ力強く発信

★凡例: マイクロモデル  
※様々な取組みにより  
人材確保・活躍の面で  
うまくいっている好事例

### 現場での実装とマイクロモデルの量的拡大

- パッケージv2.0:  
初年度のフィードバックを受け、効果の低い事業は修正
- マイクロモデルの量的拡大とともに横展開を始動

2030年  
「富山モデル」の  
確立・定着

「人が輝く」  
「選ばれる富山」に

評判が人を呼び、多様性が富山を強く

- パッケージv4.0:  
集まってきた人材と新しい挑戦に取り組む  
環境整備へシフト

先行事例を募集しています! ~あなたの知っている「こんなすごい職場」を教えてください!~

- 例) 人材確保: 他に例のない人材の呼び込み策を実施
- 働き方改革: 従業員の働きがいを大幅に高める職場環境づくりを推進
- 人材育成: 従業員一人ひとりの生産性を高める技術・資格習得などのスキルアップを支援
- 省力化・省人化: デジタル、テクノロジーを徹底活用し、働くをもっとラクに

情報提供は  
こちらから



※情報提供を踏まえ、取材をさせていただく場合があります。

# 「富山県人材確保・活躍パッケージ」の各施策の抽出・検索の方法

▼特設サイト内に配置しているブラウザ上で検索・抽出できる仕組み

**ポイント① サイトに配置の区分等で抽出・検索が可能**

富山県人材確保・活躍パッケージ

「人材確保」「働き方改革」「人材育成」「省力化・省人化」を大きな柱に、県民の皆様とともに進める多様な支援策を設けています。

支援や取組みのキーワード検索ができます（※検索フォーム欄にスペースを入れて複数のワードを入力すると、入力されたワードでの掛け合わせ検索が可能です）

検索  AZ並べ替え

以下のキーワードをクリックすることで絞り込みができます。

- 絞り込み解除 ▶
- 施策・取組み区分**
- 人材確保 ▶
- 働き方改革 ▶
- 人材育成 ▶
- 省力化・省人化 ▶
- 意識変容や基盤整備など中長期の取組み ▶
- 分野

	柱	事業名・取組み名	概要	分野	支援対象
<a href="#">詳細</a>	人材確保	人材マッチングプラットフォームの創設	エッセンシャルワーク分野をはじめとする人材不足への対応や継続雇用に係る新たな労働人口創出、多様な働き方の推進に繋げるため、県独自の農業専門求人サービス「富山めぐりマッチボックス」について、農業以外の分野にも発展拡大	全分野	企業・事業者、労働者・県民
<a href="#">詳細</a>	人材確保	民間提案制度を活用した潜在保育士の掘り起こし	民間提案制度を活用した潜在保育士の掘り起こし（具体的な内容未定）	保育	企業・事業者、労働者・県民
<a href="#">詳細</a>	人材確保	短時間農業人材マッチング促進事業	県独自の農業専門求人サービス「富山めぐりマッチボックス」の活用をさらに促進し、農業に興味をもつ人との接点を創出することで、短期的な就業をきっかけに将来の農業人材確保を図るもの	農業	企業・事業者、労働者・県民
<a href="#">詳細</a>	人材確保	富山県シルバー人材センター連合事業費補助金	富山県シルバー人材センター連合会の健全な育成を図るため、その事業実施に要する経費の一部について、県が補助するもの。	全分野	企業・事業者、労働者・県民
<a href="#">詳細</a>	人材確保	関係人口による地域活性化モデル事業	関係人口が地域課題の解決に関与するプロジェクトを実施し、関係人口を呼び込むとともに、地域の受入れのノウハウや関係人口の参画により地域が得られる効果・メリットを広く発信	全分野	企業・事業者、労働者・県民

# ポイント2 任意のキーワード検索が可能

## 富山県人材確保・活躍パッケージ

「人材確保」「働き方改革」「人材育成」「省力化・省人化」を大きな柱に、県民の皆様とともに進める多様な支援策を設けています。

支援や取組みのキーワード検索ができます（※検索フォーム欄にスペースを入れて複数のワードを入力すると、入力されたワードでの掛け合わせ検索が可能です）

Q 賃上げ

AZ並べ替え

以下のキーワードをクリックすることで絞り込みができます。

絞り込み解除

施策・取組み区分

人材確保

働き方改革

人材育成

省力化・省人化

意識変容や基盤整備など  
中長期の取組み

分野

	柱	事業名・取組み名	概要	分野	支援対象
<a href="#">詳細</a>	働き方改革	働きやすさ向上促進事業	企業における人材の確保・定着に向け、労働相談の対応やハラスメント防止対策に関する周知など働きやすく魅力的な職場環境の整備を推進します。	全分野	企業・事業者,労働者・県民
<a href="#">詳細</a>	働き方改革	県融資制度「設備投資促進資金（生産性向上・賃上げ支援枠）」	生産性を高め、賃上げ実現を図る中小企業・小規模事業者の取組みを支援	全分野	企業・事業者
<a href="#">詳細</a>	働き方改革	富山県賃上げ応援補助金	賃上げに関する国の助成金等の申請手続きに係る書類作成や就業規則の変更等を社会保険労務士等に依頼することで発生する社会保険労務士等の報酬費用の一部を補助します。	全分野	企業・事業者
<a href="#">詳細</a>	働き方改革	富山県賃上げサポート補助金	中小企業・小規模事業者の持続的な賃上げのため、国の「業務改善助成金」への上乗せ補助により賃上げと設備投資の取組みを支援	全分野	企業・事業者
<a href="#">詳細</a>	働き方改革	富山県キャリアアップ奨励金	国のキャリアアップ助成金と連動し、中小企業・小規模事業者における非正規雇用労働者の正規雇用化や賃上げ等の処遇改善の取組みを支援	全分野	企業・事業者
		介護分野の賃上げ・職場環境	介護職員等の人件費改善や職場環境改善の取組みを支援す		

# ポイント3 各施策の詳細ページにリンク

富山県人材確保・活躍パッケージ > 詳細情報

以下のキーワードをクリックすることで絞り込みができます。

絞込み解除

施策・取組み区分

人材確保

働き方改革

人材育成

省力化・省人化

意識変容や基盤整備など  
中長期の取組み

分野

全分野

医療

事業名・取組み名

富山県賃上げサポート補助金

概要

中小企業・小規模事業者の持続的な賃上げのため、国の「業務改善助成金」への取組みを支援

内容

補助対象者：「業務改善助成金」の支給決定を受けた従業員30人未満の県内事業者  
補助対象経費：「業務改善助成金」の対象経費支出済額  
補助対象期間：令和5年4月1日以降に富山労働局に交付申請を行い、令和8年3月31日までに交付額確定通知を受けたもの  
補助率：補助対象経費の10分の1 補助上限額：国の助成上限額の10分の1  
※国のR8年度改正に併せ、賃上げ額に応じて補助率を段階的に引上げ予定  
申請期間：令和9年2月26日（金）  
※申請額が予算総額に達した場合は、申請期間満了前に受付を終了します。

詳細ページリンク先（※ページがない場合、または準備中の場合は空欄となります。）

詳細ページ（リンク①）

<https://www.pref.toyama.jp/130321/sangyou/roudou/roudoukoyou/chinagesupport.html>

トップページ > 企業・しごと > 労働・雇用 > 雇用支援 > 支援・補助金・奨学金 > 「富山県賃上げサポート補助金」のご案内

## 「富山県賃上げサポート補助金」のご案内

※賃上げや生産性向上など国及び県の主な中小企業支援施策まとめ

### 富山県 生産性向上・賃上げの取組みを支援します！ 賃上げサポート補助金

物価高騰等の影響が続く中、県内中小企業等が継続的に賃上げを実施するためには、適正な価格転嫁のもと、DXや省エネ、人への投資等による生産性向上が必要不可欠です。  
「富山県賃上げサポート補助金」は、国の業務改善助成金への上乗せ補助により、県内事業者の生産性向上・賃上げの取組みを支援します。

\*業務改善助成金の対象である中小企業・小規模事業者のうち、「富山県賃上げサポート補助金」の対象は「事業規模30人未満の事業者」に限ります。

# ポイント4 生成AIの活用（より事業者等の実態に沿った施策抽出）

The screenshot shows a web browser window with a ChatGPT interface. At the top, there are several browser tabs, including one for '生成AIの活用（より事業者等の実態に沿った施策抽出）'. The main content area shows a chat window with a file named 'pakkege (1).csv' uploaded on 2026年3月24日. The chat history shows a user prompt in Japanese asking for support strategies for a manufacturing company with 15 employees and a shortage of staff. The AI response provides a list of recommendations, including government subsidies and training programs. A red box highlights the file upload area, and another red box highlights the user's prompt. A third red box highlights the AI's response. An orange arrow points from the AI's response to a box at the bottom right that says '施策活用のおすすめなどの出力も'.

▲▶ 特設サイト内に掲載しているパッケージ施策リストをChatGPT等の生成AIツールに取り込み、右例のようなプロンプト入力でも抽出可能

弊社は製造業で、15人の従業員規模の会社です。人材不足に悩んでいるのですが、人手が足りない中でも、生産ラインを拡充したいと考えています。ファイルに掲載の支援策から弊社に合う、または弊社が使える支援施策を教えてください。

製造業・従業員15人規模・人手不足の中で生産ライン拡充を目指す会社であれば、資料上は次の施策が特に相性がよさそうです。

### まず有力な施策

#### 1. 中小企業トランスフォーメーション補助金

- DX・GX・省力化/省人化による生産性向上を支援
- 省力化・省人化モデル枠は中小2/3、小規模3/4
- 補助上限は1,000万円
- 生産ライン拡充にあわせて、省人化設備・自動化導入を考える場合に有力

担当課：商工労働部経営支援課

リンク：<https://www.tonio.or.jp/search/20251216-xformation/>

#### 2. 県融資制度「設備投資促進資金（生産性向上・賃上げ支援枠）」

- デジタル技術を活用した設備導入  生成を停止する 業務効率を3%以上向上

### 優先順位のおすすめ

御社の状況なら、まずは次の順で検討がおすすめです。

1. 中小企業トランスフォーメーション補助金
2. 設備投資促進資金（生産性向上・賃上げ支援枠）
3. 専門家派遣による経営力強化集中支援事業
4. 中小企業デジタル変革推進事業
5. 富山県人材活躍推進センター
6. プロフェッショナル人材・副業兼業人材確保プロジェクト
7. とやま人材リスキリング補助金
8. 能力開発セミナー

施策活用のおすすめなどの出力も

# 交通事故防止対策

道路交通法施行令の一部改正（法定速度の見直し）R6.7.26公布

## ○ 改正内容（令和8年9月1日施行）

- ◆ 中央線等がない一般道路(いわゆる生活道路)の法定速度を30km/hとする。
- ◆ それ以外の道路の法定速度はこれまでどおり60km/hに維持。
- ◆ 速度規制標識がある場合には標識のとおり速度となる。



法定速度が60km/hの道路（例）

## ○ 背景

- ◆ 生活道路に標識を設置するよりも法定速度の見直しが合理的。  
※生活道路とは幅員5.5メートル以下の狭い道路のこと。国内の約7割が該当。
- ◆ 交通実態に合わせ、より安全な道路交通環境を確保する。
- ◆ 生活道路の法定速度を30km/hとする。



最高速度が現状60km/hの生活道路（例）

## ○ 道路管理者との連携

- ◆ 中央線の有無が、法定速度を決定する要素の一つとなる。  
※道路管理者には中央線の維持管理に引続き配慮をお願いしたい。
- ◆ 通学路等エリアの「ゾーン30」等については、引き続き推進する。



# 「警察庁推奨アプリ」の普及について

➤ 本年3月、特殊詐欺の被害を未然に防ぐための一定の基準に適合する**“特殊詐欺の被害防止に有効なアプリ”**を「警察庁推奨アプリ」として認定

特殊詐欺の被害特徴

当初接触ツールの約8割が電話

犯行利用された番号の約7割が国際電話



**「犯人からの電話を遮断」**  
で多くの被害を防げる

- 【アプリの機能特徴】** ※ダウンロード、利用料とも無料
1. 国際電話番号の発着信一括ブロック・警告 (Androidのみ)
  2. 特殊詐欺の犯行に利用された番号 (国際電話番号を含む) の発着信ブロック・警告
  3. 特殊詐欺に関する防犯情報のお知らせ
  4. 民間事業者の最新技術等を活用
- 「ダウンロード&設定完了」で詐欺電話を自動ブロック**

【名刺サイズ広告】HP等で公開。印刷すれば「誰でも」「手軽に」作成・普及が可能。

QRコードを読み込んで警察庁HP「特殊詐欺対策ページ」を開き、ページ内のリンクから警察庁推奨アプリをダウンロード。

国際電話を休止したい固定電話から電話をかけるか、QRコードを読み込んで「国際電話不取扱受付センター」のHPからWeb申請等を行う。